

川根のせせらぎとお茶畑

焼津市内中学校

野中さん

夏休みになると、僕の家族はよく川根へキャンプをしに行きます。川の上流にテントを張ると、すぐそばで水の音が流れています。昼間、川に足を入れると驚くほど冷たく、手ですくうと光を受けてきらきらと輝きます。夜になると、川のせせらぎに重なるように虫の声が聞こえ、満天の星が頭上に広がります。その大自然の中にとくと、「この川は生きているんだ」と感じます。

祖父母は牧之原でお茶農家をしていました。小さいころ祖父に連れられて茶畑を歩いたとき、祖父は「お茶は水が命なんだよ」と言っていました。そのときは深く考えませんでした。川根で冷たい川の水を体いっぱいになると、祖父の言葉がふっとよみがえってきます。大井川の水が茶畑を潤し、あの広大な牧之原のお茶を育ててきたのだと思うと、自然の恵みの大きさに気づかされます。

川根の水はとてもきれいですが、川原にごみが落ちているのを見かけたことがあります。ペットボトルやビニール袋が草の間に引っかかっていました。そのとき、もしこのごみで水が汚れてしまったらどう

なるのだろうか、と考えました。お茶も育たず、飲み水も使えなくなり、川の生き物たちも苦しむに違いありません。楽しそうに水遊びをしている子どもたちの姿を見ながら、この水を汚してはいけないと思いました。

僕はこの体験から三つのことを学びました。一つ目は、自然の恵みは当たり前ではないということです。お茶畑の緑も、キャンプで過ごした川根の景色も、すべては大井川の水があるからこそ守られているのです。二つ目は、水を大切にすることは小さな工夫から始められるということです。水を出しっぱなしにしない、ごみを捨てない、水筒を持ってペットボトルを減らす。そんな身近なことが水を守る一歩になると思いました。三つ目は、人と自然はつながっているということです。祖父母のお茶畑と川根の川、そして僕たちの生活は一本の流れでつながっていて、どちらかが欠ければ成り立ちません。

僕は川根で過ごした時間を思い出すと、ただ楽しかっただけではなく、いろいろなことを考えるきっかけになったと思います。川のせせらぎや茶畑の景色は、写真や映像では伝えきれない特別なものでした。冷たい水の感触や、夜に見上げた満天の星空は、今でも目を閉じればはっきり思い出せます。その体験があったからこそ、祖父の言葉の意味や、自然のありがたさを少しずつ理解できるようになったのだと思

います。川根で過ごした日々は、遊びながら自然に教えてもらった大切な授業のようでした。

これからの生活の中で、僕は水や自然をもっと大事にしていきたいです。たとえば、学校の水道で水を出しっぱなしにしないことや、外でゴミを見つけたら拾うこと。本当に小さなことですが、そうした行動の積み重ねが自然を守る力になると思います。また「川根でこんな体験をしたよ」と話せば、きっと自然のことを考える人が少しずつ増えるはずです。自分ができることはまだ小さいけれど、やらなければ何も変わらないので、まずは自分から行動していきたいと思います。

そして僕は将来のことを考えると、自然を守る活動にも関わってみたいと思います。川や海の清掃活動に参加したり、環境について学んだりするのもよい経験になると思います。祖父母が大切にしてきた茶畑や、川根の自然は、僕にとってただの思い出ではなく、守っていきたい大切なものだからです。もし大井川の水がなくなってしまうたら、牧之原のお茶畑もなくなり、僕の心の中にある「ふるさと」の景色も消えてしまうかもしれません。そう考えると、今のうちから自然と向き合うことの大切さを強く感じました。川根での体験は、これからの自分の生活を考えるきっかけになりました。

川根のせせらぎに耳を澄ますと、心が落ち着いて、なぜか安心でき

ます。その音はただの水の音ではなく、自然からのメッセージのように思えます。「守ってね」「忘れないでね」そんな声が聞こえてくる気がしました。そして、なによりも川根で感じたことを伝えるために、この作文を書こうと思いました。川の冷たさや茶畑の緑、夜空の星の美しさは、言葉にしてもすべてを表すことはできません。それでも、少しでもみんなが「自然って大事ななんだな」と思ってもらえたら嬉しいです。